

編輯室の内外

七月一日は元寇の國難を記念する爲の記念日とすや聞く國難國難之を征服すべきは舉國民の責任であつて敢て一部の特殊階級のみ問題ではないので銃を執つて戦線に立つの尊敬すべき責務たるは言を俟たないが、文章報國も亦國家に對するの職分である。謹んで誦するに千萬のたみのちからを集めてぞ國はゆたかになすべかりける。こゝろざす方こそかはれ國をおもふ民の誠はひとつなるらむとの御製は寔に長き極みである。

「斯く運命は扉を打つ」とはペイトヴエンの第五交響曲の主題であるが運命は各個人の扉を打ち、社會の扉を打ち、國家の扉を打ち續けて居る。日露は戦ふべき運命であるか、日本と中華民國とは其の摩擦を解消するの運命は扉を打たし加ざるか、ソビエトロシアの極東政策は滿洲より日本を退却せしめんと運命づけらるるであらうか、コミンテルンの人民戦線運動は日本にまで魔手を伸する運命であらうか。日露が協定して英露が接近するを得ざる運命となつたではなからうか佛國や伊國の極東政策は日本を孤立に立たしむるのではなからうか、靜觀の態度を持して居る北米合衆國は民族の團結の爲めに英と握手するの日も近づきつつあるの運命におかれてはなないであらうか、戦争は最も高價なる國際關係であるが極東の現情と我國の國際的環境とは非常時局の觀念に押されて國防第一主義を遂行しなければならぬ、國內に在つての威嚇や

相剋や摩擦は一日も速かに之を解消して日本の進路を明確にし正義と公平とに依存したる國際平和をもたらしべきものである。近衛内閣は組織された、國民の共鳴の聲は津々浦々まで響き渡つた。二大政黨が共同聲明を爲して「林内閣の下では人心不安國勢滯滞、其罪斷じて許すべからず」と眞向から叫んで政黨の餘力尙強剛なりと言はんばかりの勢を示したが近衛内閣の出現に依つて國政の進路が開かれたりと思惟したのか一は新全體主義へと方向轉換を策し他は黙々として軍部のイデオロギーに合流せんととの傾向を視らるゝに至つた。國內相剋の弊が解消せられて明徹せる經綸が具體化するゝのであらうか。

近衛内閣は國民經濟力の充實發展に關する三大原則即ち生産力の擴充、國際收支の適合、及物資需給の具體的政策の確立の方向を明示し其の歩武を進むることとなつた。夫れで廣田外相を首班とする企畫廳は其の使命を果すべく着々調査企畫を進めつつある。次で保健省の創設を見、更らに交通省の建設にまで増省の道を辿らねばざる運命に其の扉が打ちたゝかされたらぬべきであらうか。陸軍軍部の推進力は三大原則達成の爲めの綜合的五年計畫を樹立せしむるまでに至らしむるの運命をもつてを居るであらうか。八宗兼學の先達國に於て組織せる内閣である。英佛の先進國にも既設せられて居る帝國藝術院を誕生せしめんとして居る綜合的進路網の計畫乃至土木政策が研究せられつつある、時代は流れ流れて止まる所なきも歴史は繰り返さるゝ所もなきにあら

ず否大體に於て相似たる時勢が轉じては復し、復しては轉ずること走馬燈の如き觀があるのである。混沌不安の世相に直面して單に「食ふて生きる」と云ふ問題として取り上げ、其の始末をつける政策を施政すれば世相は一變化するものと思惟するに於ては餘りに盲目で無知で無見識であると思はる、生存と云ふ人生問題は實に食ふて生きて居らるると考ふるならば案外平易なる解決が與へらるであらうが人間の生存は生命力の現はれであつて肉體の生育健全は勿論精神の自由向上躍動を肯定しなければならぬ、其の政策や如何。「生存の問題」は個人ばかりでなく國內的に於て更らに又國際的に緊張せられなくはならぬ現今に在つて如何に此問題が取り扱はれて居るが、嚴密に之を考查するを要す(洩)

定價一部 五十錢
一ヶ年分 金六圓
發行所 東京市麹町區外櫻田町一番地内務省内
社団法人 道路改良會
電話銀座(57)四二七
東京市世田ヶ谷區北澤五丁目七五二
發行所 小島 效
編輯者 小島 效
印刷所 東京市小石川區諏訪町五六
常磐印刷所
印刷者 奈良良直